

1. 概要

記入日 2016年1月15日

実践団体名	いのちを守る防災教育を推進する会（略称：命守会）		
連絡先	083-234-4007		
プランタイトル	ワークショップを活用したいいのちを守る防災教育の普及		
プランの対象者 ^{※1}	2,3,4,5,8,9,10,11	対象とする 災害種別 ^{※2}	3

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ・児童・生徒の防災意識を高め、実際の防災対応行動につなげるための能動的な学習方法である「大雨防災ワークショップ（以下、WSという）」の実施と普及を図り、学校の教職員自らの実践を通して児童・生徒が自ら考え行動する力を身につける。
- ・命守会加盟の「3団体の特長」を活かした効率的・効果的な防災教育の推進。
- ◎日本赤十字社山口県支部：災害救護団体であり、学校や地域で独自の防災教育プログラムを実施
- ◎日本気象予報士会西部支部：防災に関心があり、勉強やボランティア活動に熱心な会員で構成
- ◎下関地方気象台：気象の専門家であり、気象災害等に関する豊富な知識とデータを保有
- ・WSを活用した防災教育の取組みを命守会の枠組みで継続的に行うことにより、地域の防災力の向上に資する。

【プランの概要】

- ・山口県内の学校等を対象に県教育庁や市町の教育委員会・防災部局などと連携してWSを実施
- ・WSを実施する中で得られた経験・意見をもとに課題等を整理し、WSシナリオを改善
- ・教職員研修会等で教職員を対象としたWSを実施し、学校自らによる実践を推奨
- ・山口県の災害リスクを加味したWS運営マニュアルの作成と資料等のパッケージ化

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・本プログラムは、小学校中学年から高校生（一般も含む）まで幅広く防災教育の教材として対応できるものであり、レクチャー・グループ学習を通じて能動的に防災を学べるものである。いざというときに自発的に行動できる知識を効果的に身につけることができる。
- ・実践的で効果的な「防災教育プログラム」として教職員からも高く評価（教職員研修会）され、児童・生徒の知識や意識も高められたことから、教職員を通じてのWSのさらなる展開・普及が期待できる。
- ・授業で実施可能にするための改善を行い、地域（山口県）の情報を取り入れたプログラムとしたことから担い手となる教職員が授業に導入しやすくなる。

2. プランの年間活動記録 (2015～2016年)

	プランの 立案と調整	準備活動 ※WS対象(人数)	実践活動 ※ワークショップは、WSと表記
4月	今年度の計画等の立案、調整	活動計画の検討	年間計画書の策定、内容の協議
5月	5/21 命守会会議 (活動計画 検討・決定) ・活動計画書の見直し・提出 ・県教育庁とWS実施計画の 確認、調整 ・市町の教育委員会、防災部 局への連絡調整	・中1 (31名) ⇨ ・中1 (91名) ⇨ 3クラス ※WSの際は、事前 調整・準備、事後に 意見・アンケート整 理を毎回実施	5/21 宇部市立黒石中学校WS (1回目) 5/29 宇部市立黒石中学校WS (2～4回目) ※5/21 に命守会でデモ的なWSを行い、 5/29 に学校の担任自らが授業の中でW Sを実践した。 ・県内教育委員会会議でWSを紹介
6月	・県教育庁とWS実施計画の 確定、具体的な方針確認	・高3 (31名) ⇨ ・高2 (43名) ⇨	6/2 県立徳山商工高等学校WS 6/11 県立西市高等学校WS
7月	・「防災教育セミナー」の立 案・調整	・全校 (55名) ⇨ ・小5・6、中1～3 ⇨	7/7 萩市立田万川中学校WS 7/15 萩市立大島小・中学校WS
8月	8/4 命守会会議 (防災教育セ ミナーの内容決定、WS運営 マニュアルの内容検討)	教職員 (27名) ⇨ 防災教育セミナー 準備、調整	8/18 防災教育セミナー (WS、青少年赤十字防災教育プログラ ム、防災講演を実施)
9月	9/10 命守会会議 (中間報告 書等検討・作成、WS運営マ ニュアルの内容検討)	・小6 (25名) ⇨ ・全校、保護者 ⇨ (28名) ・小3～6 (21名) ⇨	9/8 山陽小野田市立埴生小学校WS 9/27 宇部市立小野中学校WS ※台風防災WSを実施 9/29 美祢市立綾木小学校WS
10月	10/17～18 防災教育フォー ラム・中間報告会	・一般 (17名) ⇨ ・小5 (52名) ⇨	10/14 下関未来大学WS (一般対象) 10/22 下松市立久保小学校WS
11月	11/12 命守会会議 (教職員研 修会でのWS検討、WS運営 マニュアル内容検討)	・全校 (16名) ⇨ ・教職員 (124名) ⇨ 教職員研修会準備	11/6 萩市立川上中学校WS 11/9 山口県教職員研修会でのWS (教職員対象に3会場でWS実施)
12月	・WS運営マニュアルの内容 検討、調整	・小5～6 (22名) ⇨	12/17 下関市立本村小学校WS ・教職員研修会のフォローアップ
1月	1/13 命守会会議 (最終報告 書等検討、WS運営マニユ アルの内容検討)	・教職員 (30名) ⇨ ・小3～4 (23名) ⇨ ・小3～4 (44名) ⇨	1/20 防府市小中校長研修会WS 1/21 岩国市立そお小学校WS 1/23 防府市立小野小学校WS
2月	・活動成果物の内容確認 2/20 活動報告会 (活動成果物の提出)	・活動成果等の整 理、分析・検証	・活動成果物の検討・作成 WS 予定：萩市立椿西小、下関市立小 月小、柳井市立大畠中、下関天使幼稚園
3月	・成果物の学校配布について 県教育庁と連絡調整 ・次年度の企画、計画の立案	・成果物配布、広 報等準備 ・検討、協議	・教育実践の成果等を外部に発信 ・次年度の計画を策定 ・次年度の体制を確認

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ①】※3

タイトル	学校での大雨防災ワークショップの実践とシナリオの改善
実施月日（曜日）	平成27年5月21日(木)、5月29日(金)、6月2日(火)、6月11日(木)、7月7日(火)、7月15日(水)、9月8日(火)、9月27日(日)、9月29日(火)、10月14日(水)、10月22日(木)、11月6日(金)、12月17日(木)、平成28年1月21日(木)、1月23日(土)
実施場所	 <p>山陽小野田市立埴生小学校、美祢市立綾木小学校、下関市立本村小学校、下松市立久保小学校、岩国市立そお小学校、防府市立小野小学校、萩市立大島小学校・中学校、宇部市立黒石中学校、宇部市立小野中学校、萩市立田万川中学校、萩市立川上中学校、山口県立徳山商工高等学校、山口県立西市高等学校、下関未来大学（一般対象）</p>
担当者または講師	いのちを守る防災教育を推進する会メンバー、宇部市立黒石中学校においては担任の先生
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 コマ×45分、1 コマ×50分、2 コマ×45分=90分、2 コマ×50分=100分など学校等の要望により対応
プログラムのカテゴリ、形式※4	2, 4, 5, 11
活動目的※5	5, 6, 8, 9
達成目標	大雨防災ワークショップを活用して、参加者の防災意識を高め、気象情報を活用し実際の行動につなげる また、学校の先生が地域に根ざした話題を含めて単独で実施できるように学校長や自治体の防災・教育担当者などと意見交換を行ってシナリオの改善を図る

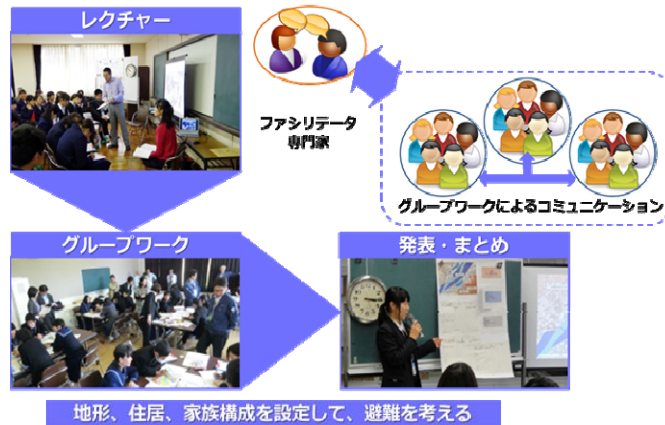


実践方法・進め方
(箇条書き
またはフロー)

1. 「大雨防災ワークショップ (以下、WSという)」の進め方

架空の町でいろいろな条件を付与して、経験のない大雨時にどのような準備や行動をするのかをグループワークで考えさせる

- I. レクチャー：ファシリテーターが、大雨による災害と気象台から発表される防災情報について説明
- II. グループワーク：グループ毎に異なる条件（地形・住居・家族構成）設定の下、大雨災害時における各ステージでどのような行動を取るのか話し合う
- III. まとめ・発表：グループワークでの話し合いをまとめてグループ毎に発表し、意見交換を行う。また、ファシリテーターが各班の発表にコメント



IV. 教職員や防災担当者との意見交換会

WSを実施後、必ず関係者（学校長、教師、教育委員会、防災担当、地域の防災リーダーなど）と意見交換会を実施し、課題や問題点を出してもらいシナリオの改善につなげる。



WS後の意見交換会

2. WSシナリオの検証・改善 (PDCAサイクル)

WSシナリオの改善については、PDCAサイクルによる検証・改善を行っている。

【Plan】

企画・計画段階において命守会の推進会議でシナリオの改善を図るための、WS実施計画を策定する。

【Do】

県教育庁などの連携の下に、日本赤十字加盟校の協力を得てWSを実施する。また、下関市立大学と連携して一般を対象としたWSも実施。

【Check】

評価のために事前・事後アンケート調査を行う。WS実施後は、学校長や教職員、見学に来ている市町の教育・防災担当者とのWSについての意見交換会を必ず実施。

【Action】

WSを実施する中で得られた課題や意見をもとに改善を行い、次のWSに反映。併せて、学校自らがWSを実施するための運営マニュアルの作成と資料等のパッケージ化を進めた。

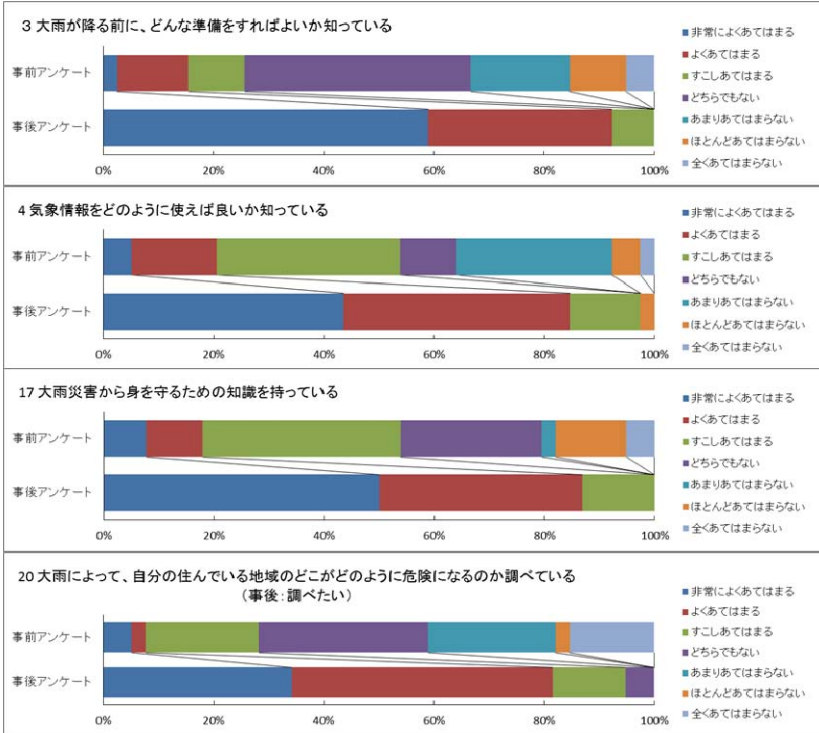
	<p>[P D C A サイクル図]</p> 
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のハザードマップ ・WS用の道具、材料 (ワークシート、マジック、付箋紙、電子黒板、パソコン等) ・市町の防災担当部署や教育委員会へ見学及び意見交換会への出席を要請した。
<p>参加人数</p>	<p>のべ700名以上 (1学校あたり22名~56名)、生徒のほか、保護者、教職員、地域の住民を含む)</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>命守会メンバーの交通費：約5万円 WSの消耗品費：約10万円</p>

成果と課題

1. 防災教育効果について (アンケート調査)

WSでは、防災通常時の備え、適時適切な情報入手や安全行動といった対応力を身につけるため、自らの問題としてシミュレートする活動を取り入れている。WSの効果を確認するため、15校ほどでWSの実施前・後でアンケート調査(22項目)を行った。その結果、ほとんどの児童・生徒が成果として知識が増えただけでなく、意識の高まりが見られた。このことから、WSは有効な防災教育のツールであることが確認できた。

※アンケート結果(実施前後比較)の一例を以下に掲載。



2. 教員によるWSの実践

平成 27 年 5 月 29 日に宇部市立黒石中学校で、通常の授業で担任の先生がWSを実践した。お手本として 5 月 21 日に 1 年 1 組を対象に気象予報士によるWSを実施し、他のクラスの担任がWSの進め方などを見学。

3つのクラスとも担任の先生の工夫もあり、問題なくWSを実施できた。また、専門教科により以下のような特徴も見られた。

- ・1年2組(専門 理科): 気象の知識を正しく丁寧に説明
- ・1年3組(専門 国語): 大事な用語を繰り返し音読させた
- ・1年4組(専門 美術): 想像する時間(グループワーク)を重視

この試行的なWSが成功したことで、学校単独でのWSの実施に向けて大きな自信につながった。

さらに、1年4組のWSをマスコミに公開したところ、テレビ局(3社)と新聞社(1社)の取材を受けた。県内のニュースで放送され、新聞に記事が掲載されたことによりWSだけでなく、「命守会」の防災教育の取り組みについても広くアピールすることができた。



1年2組

1年3組

1年4組

3. WSシナリオの改善の経過

WSシナリオ等の改善履歴	
WS実施校	■意見交換会での提案等を踏まえた改善等
5/21 黒石中学校	◎河川のはん濫の映像を山口県須佐川の事例に変更 ◎発表用資料は模造紙に替えて、ワークシートを縦に繋げるにより省力化、コンパクト化 ◎教員が実施することを想定し、ファシリテーターが専門家を兼任する一人バージョンを基本形とした。 ◎発表用資料を廊下や教室に貼り出して他の生徒への共有を推奨
5/29 黒石中学校	◎授業1コマ(50分)用のWSシナリオを作成
6/2 徳山商工高校	◎発表時は、先ず「場所・家・家族構成」を言うようにセリフを変更 ◎グループワーク①を前日のニュースまで。グループワーク②を注意報から特別警報までに変更
7/7 田万川中学校	◎グループワークで最初3分間は誰とも話し合わず自分の意見を付箋紙に書くことを試行。 ◎被災経験のある学校だったため、使用する映像に配慮(動画を静止画に変更)
7/15 大島小・中学校	◎グループワークの経過時間がわかるようにタイムバーをプレゼンに掲載
8/18 防災教育セミナー	◎用語をわかりやすく正しいものに変更 「リスク」→「危険度」、 「避難所」→「緊急避難場所」など
9/8 埴生小学校	◎土石流の映像を平成27年鹿児島県垂水市の事例に試行的に変更したが、音声がなかったことから児童の反応はあまりよくなかった。
9/27 小野中学校	◎学校のニーズに応えるため、台風バージョンのワークショップを作成し、試行的に実施して好評だった。
9/29 綾木小学校	◎小学校中学年を対象だったため、漢字にルビを追加し、地図を簡略化
10/14 下関未来大学	◎一般住民が対象だったため、ワークの付与情報として下関市の「避難勧告」を追加
10/22 久保小学校	◎グループワーク②の注意報から特別警報までの期間を1日に短縮(全体も3日間を2日間とした)
11/6 川上中学校	◎自分の市町での過去の災害時例の記憶が薄れてきているとの意見を踏まえ、市町ごとの災害時例を参考資料としてWSマニュアルに掲載することとした。
11/9 教職員研修会	◎教職員対象のアンケートを作成 ◎アンケート結果をもとにフォローアップ実施



4. WS運営マニュアル作成と資料のパッケージ化

WSを実施する中で得られた経験・意見をもとにシナリオを改善

◎WS運営マニュアル

- ◆WSを児童・生徒が身近に感じられるように山口県で発生した災害や地域の災害特性を加味
- ◆学校の授業時間の中で実施できるように改善
- ◆専門家でない学校の先生が実践するための資料の充実

山口県内の災害の映像・画像を採用



成果物

- ① WSで作成したワークシートは学校に掲示
- ② 事前事後アンケート調査結果の取りまとめ
- ③ 学校で実施するためのマニュアル

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

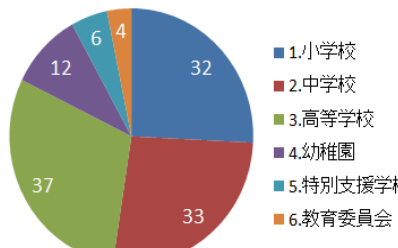
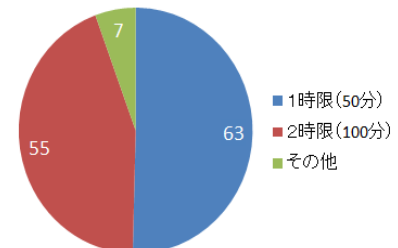
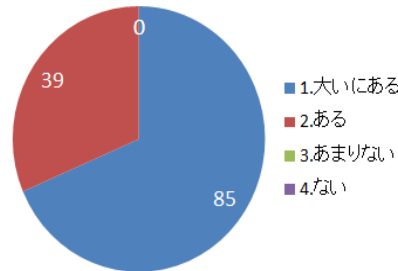
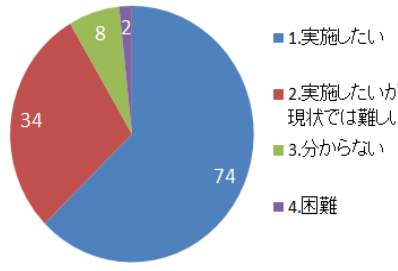
【実践プログラム番号： ②】※3

タイトル	防災教育セミナー
実施月日（曜日）	平成27年8月18日（火）
実施場所	カリエンテ山口（山口市）
担当者または講師	いのちを守る防災教育を推進する会メンバー、下関市立関西小学校厚東校長、山口市立平川中学校 村岡教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	① 青少年赤十字防災教育プログラム 50分 ② 大雨防災ワークショップ 50分 ③ 気象予報士による防災講演 50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1, 2, 3
活動目的※5	1, 3, 5, 6, 8, 9
達成目標	児童・生徒が自然災害から命を守るために、自ら考え判断し行動できるよう、教職員に防災教材やワークショップを紹介し、体験をとおして各学校における防災・減災教育の推進に資する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の活用、防災コミュニケーションワークショップ紹介 ② 大雨防災ワークショップ（以下、WSという） I. レクチャー II. グループワーク III. まとめ・発表 ③ 講演：2014年8月広島市で発生した土砂災害について
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・青少年赤十字防災教育プログラム用の道具（ペットボトルとマジックを加工したもの、模造紙等） ・地域のハザードマップ ・WS用の道具、材料（ワークシート、マジック、付箋紙、パソコン等）
参加人数	27名（教職員）
経費の総額・内訳概要	会場使用料：約2万円、命守会メンバーの交通費：約1万円 消耗品費：約1万円
成果と課題	■成果 青少年赤十字防災プログラムとWSとの初のコラボレーションイベントだったが、多くの参加者から好評を得た。このことから命守会ではWSだけでなく3団体の特長を活かした救護などを含めた総合的な学習として防災教育を進めることとした。 また、これまでのWSの成果をアピールするとともに、学校単独での実施に向けた働きかけができた。 ■課題 命守会の防災教育の取り組みにおいて、赤十字の防災プログラムをどのように取り込んでいくかを検討していく必要がある。
成果物	暫定（8月）版のWS運営マニュアル、説明用ファイル、実践例などを収録したDVDを作成して参加者に配布

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>命守会メンバーの交通費：約1万円 WSの消耗品費（配布用DVDを含む）：約3万円</p>																																		
<p>成果と課題等</p>	<p>■成果 アンケート結果を見ると、全ての方が“防災教育の効果がある、大いにある”と回答されており、今後、WSを学校へ展開するための大きな根拠（後ろ盾）となる。 また、WSに参加された多くの教職員から“自分たちの学校で実施したい”との要望があった。このことから運営マニュアルの作成と資料等のパッケージ化などで環境を整えることにより、学校の授業の中での継続的なWSの実施が期待される。WSのさらなる普及・拡大により地域の防災力アップにつながる。 さらに、幼稚園から高校まで、あるいは特別支援学校の教職員が参加されているが、いずれも本プログラムに対して評価が高く実施したいとの意見も多い。このことは、どのレベルの学校でも防災教育に関する要望が同じくらい強いということも分かった。 今回のアンケートをもとに、県や市町の教育委員会及び防災部局と連携して防災教育のモデル市(町)やモデル校の設定をするなど、今後の防災教育推進に取り組んでいる。</p> <p>■課題 WSが「防災教育プログラム」として高く評価される一方で、行事が多く時間が取れないなど“WSを実施したいが現状では難しい”との意見も多数見られた。現在の学校教育の現場において、スケジュールが過密で多忙な教職員に対していかにWSを実践してもらうかが課題である。教職員が実際に学校で実施していくためには、例えばレクチャー部分をビデオ化等にするなど、事前準備に時間のかからない選択肢を用意するなどの検討が必要である。</p> <p>【アンケート結果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="542 1142 941 1433"> <p>(1) 勤務する学校の種類</p>  <table border="1"> <tr><td>1.小学校</td><td>32</td></tr> <tr><td>2.中学校</td><td>33</td></tr> <tr><td>3.高等学校</td><td>37</td></tr> <tr><td>4.幼稚園</td><td>12</td></tr> <tr><td>5.特別支援学校</td><td>6</td></tr> <tr><td>6.教育委員会</td><td>4</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="973 1142 1372 1433"> <p>(4) どれぐらいの時間が必要</p>  <table border="1"> <tr><td>1時限(50分)</td><td>63</td></tr> <tr><td>2時限(100分)</td><td>55</td></tr> <tr><td>その他</td><td>7</td></tr> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="542 1500 941 1814"> <p>(2) 防災教育としての効果</p>  <table border="1"> <tr><td>1.大いにある</td><td>85</td></tr> <tr><td>2.ある</td><td>39</td></tr> <tr><td>3.あまりない</td><td>0</td></tr> <tr><td>4.ない</td><td>0</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="973 1500 1372 1814"> <p>(3) 実施したいと思いましたが</p>  <table border="1"> <tr><td>1.実施したい</td><td>74</td></tr> <tr><td>2.実施したいが現状では難しい</td><td>34</td></tr> <tr><td>3.分からない</td><td>8</td></tr> <tr><td>4.困難</td><td>2</td></tr> </table> </div> </div> <p>【フォローアップ】 さらに今回のアンケートには“命守会の支援があればWSを実施しても良いか”との問いかけもしており、“実施しても良い”と回答をいただいた参加者に対して、実際に学校で実施できるよう支援するために、WS実施</p>	1.小学校	32	2.中学校	33	3.高等学校	37	4.幼稚園	12	5.特別支援学校	6	6.教育委員会	4	1時限(50分)	63	2時限(100分)	55	その他	7	1.大いにある	85	2.ある	39	3.あまりない	0	4.ない	0	1.実施したい	74	2.実施したいが現状では難しい	34	3.分からない	8	4.困難	2
1.小学校	32																																		
2.中学校	33																																		
3.高等学校	37																																		
4.幼稚園	12																																		
5.特別支援学校	6																																		
6.教育委員会	4																																		
1時限(50分)	63																																		
2時限(100分)	55																																		
その他	7																																		
1.大いにある	85																																		
2.ある	39																																		
3.あまりない	0																																		
4.ない	0																																		
1.実施したい	74																																		
2.実施したいが現状では難しい	34																																		
3.分からない	8																																		
4.困難	2																																		

	<p>の案内文書を送付した。(現在までに4校からWSの申し込みあり) この中で、幼稚園から実施したいとの要望があった。それは、保護者に対してのWS実施ということで、幼稚園等で実施する場合の一つの解決策になると思われる。</p>
成果物	<p>① アンケート調査結果 ② 暫定(11月)版のWS運営マニュアル、説明用ファイル、実践例などを収録したDVDを作成して参加者に配布</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 各団体の拠点が山口市、宇部市、下関市と離れており打合せ等を度々行えないため、プランの立案・調整はメーリングリストを活用して頻繁に連絡を取り合っており意思統一を図った。また、少なくとも2ヶ月に1回は定期的な会議を開催し、3団体が集まって情報や意見交換とプランの決定を行った。 ② 3団体の特長を活かした取り組みとなるよう全般的な活動の検討や広報活動を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象としたWSと青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」とのコラボレーションイベントを企画・開催。また、気象予報士会所属の気象キャスターの協力によりテレビ等でWSを紹介。 ③ WSを児童・生徒が身近に感じられるようにレクチャー部分に山口県で発生した災害を採用することとしたが、画像・映像の使用許可が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・画像・映像の所有者である山口県防災部局等に協力を依頼、個人に対しては直接訪問しWSの防災教育への効果を説明し、映像の使用許可を得た。 ④ WSの実施にあたっては、県教育庁及び市町の教育・防災担当部署の理解協力が不可欠であることから、機会あるごとに訪問するなどして日頃から連携を図っている。
<p>準備活動で苦勞した点工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① WSの事前準備として会場の選定や机・椅子の配置、生徒の班分けや役割分担、名札やスクリーン・プロジェクターの確保など、現地確認や学校担当者との調整が必要となる。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に現地に赴けない場合は、メールにて会場の写真などを提供してもらい学校との調整を行う。また、将来的に学校自らがWSを実施することを見据え、これらの準備は基本的に学校側に依頼することとした。 ② 各学校がWS実施のために確保する時間が、1コマ×45分、1コマ×50分、2コマ×45分=90分、2コマ×50分=100分など異なることから、対応できるようにシナリオの構成を工夫した。 ③ WSのファシリテーター及びスタッフは、事前に会のメンバーに参加の可否について照会し、人材育成も念頭において人員（負担）が偏らないように調整。 ④ WSでは対象の学校が含まれる地区のハザードマップを利用しており、参加した児童・生徒にハザードマップ及び市町が作成する防災ハンドブックなどを「お土産資料」として配布している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップについては、事前に地元市町の防災部署に協力を依頼し、必要部数を確保しており、この際、担当職員へのWS及び意見交換会への参加を呼びかけている。
<p>実践に当たって苦勞した点工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① WSを実施する中で運営方法や説明用資料の内容など課題が明らかになるものがある。また、WS後には意見交換会を毎回実施しており、教職員や市町の防災担当者等から改善に向けた要望や提案がある。 <p>これらの改善点については、命守会内で共有して即時的に対応可能なものは次回から、検討が必要なものは命守会の会議に諮った上で改善を行っている。気象の専門ゆえに伝えたいことがたくさんあるが、学校の授業時間という制約があることから、教職員の意見も取り入れて試行錯誤を繰り返し、WSの内容や要点を絞った。</p> ② 小学校を対象としたWSでは、学習レベルに合わせて文章表現を簡単にし、気象情報等の漢字にルビを振るなど工夫している。また、避難経路を考えるための地図の簡素化も図った。 ③ グループワークの進行を円滑にするためにワークごとに資料をまとめた封筒を用意。また、昨年まで模造紙にワークシートを貼り付けていたが、ワークシート自体を縦長に貼り合わせるように工夫することで時間短縮につながった。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	◎山口県教育庁 山口県学校安全・体育課 ◎市町教育委員会 下関市、山口市、宇部市、防府市、萩市、 山陽小野田市 ◎県内各学校（日本赤十字（JRC）加盟校 を含む） 山陽小野田市立埴生小学校 美祢市立綾木小学校 下関市立本村小学校 下関市立小月小学校 下松市立久保小学校 防府市立小野小学校 岩国市立そお小学校 萩市立大島小学校・中学校 宇部市立黒石中学校※ 宇部市立小野中学校 萩市立田万川中学校 萩市立川上中学校 山口県立徳山商工高等学校 山口県立西市高等学校 ◎下関未来大学 下関市立大学と下関市が共同	<ul style="list-style-type: none"> ・WS実施校の紹介、学校との調整時の協力支援 ・教職員研修会等でのWS実施への協力支援 ・WS実施及び広報への協力支援、意見交換会での助言 ・WS実施への協力、防災教育セミナー実施への協力 ・WS実施への協力、意見交換会での助言 ※教員単独での試行に協力を得た（課題等が鮮明に） ・一般を対象としたWS実施への協力
保護者・ PTAの組織	◎WS実施校の保護者 萩市立大島小・中学校、萩市立川上中学校、 宇部市立小野中学校	・WSへの参加、協力
地域組織	◎WS実施校がある地域の自主防災組織 宇部市小野地区防災会	・WSへの参加・協力、意見交換会での助言
国・地方公共団体・ 公共施設	◎山口県及び県内市町の防災担当部署 山口県防災危機管理課 山陽小野田市、美祢市、下関市、下松市、防 府市、岩国市、萩市、宇部市、周南市	・地域のハザードマップの提供、WS後の意見交換会での助言



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レクチャーにおいて山口県内で起こった災害を見てもらうことで、災害を身近なものとして捉え、その後のWSの大切さを実感し取り組んでもらえた。 ・児童・生徒がグループワークの中で、家族のこと、避難準備・行動のことなどを真剣に考えて、大人でも気づかないような意見を出すなど防災意識の向上が見られ、教育効果が高いことを確認できた。 ・教職員・保護者・地域住民も巻き込んでWSを進めることで、大人が子供たちの意見に大いに刺激を受けている現状が見られた。子供たちの意見において特に年寄りや自分より小さな子供のことを気遣う内容など、大人顔負けのリーダーシップを発揮し、教職員もいつも学校では見られない児童生徒の頼もしさに驚く場面も多々あった。 ・一部で対象年齢を小学3年生まで下げて実施したが、小学3年でも想像力を働かせて自分達の命を守る行動を考えるというゲーム性の面白さもあって、すんなりと受け入れられ、発表まで見事にこなすことができた。このプログラムが年齢を問わず、大人から子供まで幅広く使ってもらえるものだと立証された。 ・約20校の小・中・高等学校でのWS実施後に先生方の意見を聞きながら内容の見直しを繰り返したことで、完成度の高いプログラムへと仕上がっていった。 ・前項のWSの経験を生かして改善されたプログラムを使った教職員を対象とした2回のWSでは、実際の防災対応行動につながる効果的な学習方法であるとの評価を教職員等から得た。 ・赤十字の防災教育プログラムとWSのコラボレーションイベントが好評であり、命守会の3団体の特長を活かした救護などを含めた総合的な学習としての防災教育に取り組んでいる。 <p>(まとめ) これまでの防災教育は、知識のみを学んだり、決められたことを実践するものが主だったが、このWSは、大人に指示されて行動するのではなく、自分達が主体となって家族をどう守るのかを考えるというのが大きな特徴で、その効果に学校側も大いに期待を持ってくれていると実感した。このWSを経験した子供たちが、将来、地域の防災リーダーとなってくれることを願い、更にこの活動を広めていく。</p>
<p>全体の反省・感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本会のプログラムは有効な防災教育のツールであると評価されている。一方、教職員のアンケート結果では、スケジュールが過密で実施する余裕がないと判断される。 ・今後本会のプログラムを広めていくためには、県や市町の教育委員会や学校長への本プログラムの積極的なアピールが必要である。 ・さらに、命守会として実施に意欲的な学校を継続的に支援できる体制を維持・強化する必要がある。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、WSを使った防災教育の普及のために県の教育庁と連携して、命守会として年間15校程度WSを実施する。 ・本プログラムを防災に関する資料とともにDVDに取りまとめて県内に教材として配布予定。 ・本プログラムを学校等での活用を広めていくためには、教職員を育成・支援する必要がある。まず、県や市町の教育委員会及び防災部局と連携しモデル市(町)やモデル校で実験的に導入を図って、その成果を持って全県への拡大を行う必要がある。現在、モデル市(校)を設定できるように調整している(ある程度の目処はついている)。 ・モデル校等については、WSだけでなく3団体の特長を活かした総合的な防災教育を推進する(例えば、日本赤十字社の得意とするボランティア活動なども含めて)。 ・3団体それぞれのネットワークを活かして、命守会の取り組みを全国に広げたい。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

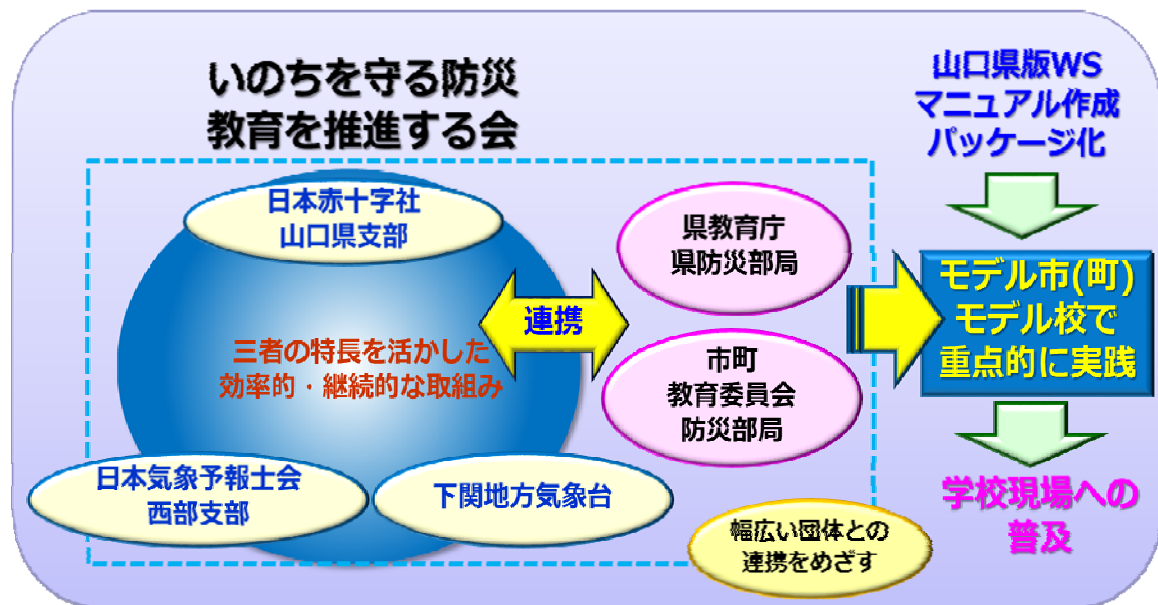
1. 防災教育支援の継続的な取り組みについて (将来的な計画について)

命守会結成の目的の一つは、継続的な取り組みを行うための枠組み作りにある。これまでも、加盟の3団体はそれぞれ防災教育支援の取り組みを行ってきたが、連携した結果、ネットワークが広がりより強力な取り組みとすることができた。それとともに、取り組みを維持する仕組み(役員等の組織)や、部外の機関との協力関係も築けたことが大きい。

現在、3団体で構成する命守会であるが、県教育庁や県防災部局及び市町の教育・防災部局と連携しつつ、大学関係者などとのさらに幅広い連携をめざす。

また、継続的な取り組みを行うに当たっては将来計画(目標)が重要である。今年度の取り組みによって、教職員が授業に導入しやすくするために、山口県の災害特性を加味したシナリオの改善を行い、山口県版の運営マニュアルを作成するとともに資料等をパッケージ化した教材(プログラム)を用意できた。

次年度からは、このプログラムを学校現場にどのようにして普及していくかが課題である。そのため、2～3年かけて実践者となる教職員を育成・支援するために、防災教育のモデル市(町)やモデル校を設定した上で重点的にWSを実践し、プログラムの学校現場への普及を図ることが次の目標である。



2. 防災総合学習としての展開

WSは学校のニーズに応えるため、大雨を対象としたものだけでなく、台風や地震・津波を対象としたものも実施する予定である。

一方、日本赤十字社では青少年の健康と安全を守り、学校や地域、家族での防災意識の向上を目的とした青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」を作成しており、救急法や防災減災の講習も行っている。

(自由記述: 1/2)

命守会の3団体の特長を活かし、本プログラムだけでなく赤十字社の防災教育プログラムや災害ボランティア、救護や防災の講習なども取り込んだ総合的な学習として展開していく。



3. 連携モデルの全国への発展

日本赤十字社と気象庁は協力して、将来起こりうる自然災害がもたらす被害の軽減や被災者数の減少に寄与できるよう、それぞれが行う防災教育をはじめとする安全知識の普及啓発を一層充実し、継続的な活動とするため、「防災教育の普及等の協力に関する協定」を締結しており、赤十字社各県支部と地元気象台との連携が進んでいる。

また、気象庁と日本気象予報士会は連携して「局地的な大雨からの被害軽減に向けた取組み」を実施するための防災プロジェクトを立ち上げており、各地で気象台と予報士会支部との連携した取り組みが行われている。

「命守会」は、全国で初めてこの3団体が結びついた連携モデルであり、その取り組みが継続的に発展していることを防災教育チャレンジプランなどでアピールすることにより、同様の連携が全国に発展することが期待される。また、全国では防災士会などとの連携も進んでいるところもあり、より大きな連携の可能性もあることから本取り組みは官民一体なった防災教育支援のモデルケースとなることが期待される。

4. 明るく、楽しく！

山口県は、日本海や瀬戸内海に面し3方を海に囲まれ海や山の豊かな自然と、その自然から享受する山の幸海の幸の恵みが実に豊富である。

命守会では防災教育の中で自然災害の怖さだけでなく自然がもたらす豊かな恵みについても説明している。

また、命守会の会議後は、組織の連携を深めるため親睦会を開催し、この豊かな自然の恵みを堪能することとしている。



(自由記述: 2/2)